

5 月のマーケット見通し

<米国・欧州他>

引き続き、インフレ懸念に伴う米国の利上げとウクライナ情勢およびウクライナ情勢を背景としたエネルギー市場の動向が、市場の関心事の上位に挙がるであろう。新型コロナウイルスについては、感染拡大に伴う中国のロックダウンが新たな波乱要因となった。中国経済の世界経済への影響や中国のエネルギー需要を巡る市場の反応を注視する必要がある。前述の事象を含め、考えられる調整要因は以下のとおりである。

① 金融政策

3 月 15 日、16 日に開催された米 FOMC で予想通り政策金利が 25bps 引き上げられた。ゼロ金利政策から脱却したことで、金融政策を巡っての市場の反応は鈍化していたが、4 月 21 日、IMF 主催のパネル討論会で FRB のパウエル議長が、5 月 3 日、4 日に開催される FOMC で 50bps の利上げを検討すると発言し、これに市場は過敏に反応した。利上げペースが市場の最大の関心事であることは間違いない。ウクライナ情勢やエネルギー市場の動向など不確実な要因が利上げペースに影響を及ぼす可能性は残っている。欧州においては、インフレ上昇への警戒感から英国が 3 回連続の利上げを実施した。その後、イングランド銀行からは、利上げによる景気への影響を懸念する声も出ていたことから、積極的な利上げの可能性は少し後退した感があったが、イングランド銀行高官からタカ派的な発言があり、市場では金利先高観が再度高まっている。また、ECB においても、ラガルド総裁が 2022 年度中の利上げに言及することが多くなり、また他の ECB 高官からも利上げが必要との発言が見られる。ウクライナ情勢に端を発するエネルギー価格の上昇を抜きにしてもインフレ高止まりの可能性が強まっており、金利先高観は一層強まっている。

② ウクライナ情勢とエネルギー問題

ウクライナへのロシアの軍事侵攻は、引き続き市場混乱の要因となっている。当初は、戦争そのものの市場心理への影響が大きく、リスクオフの動きを加速させ、市場急落の要因となったが、市場の焦点は、エネルギー市場の不安定な推移やそれがもたらす経済への実質的な影響へと移ってきている。西側諸国の経済制裁により、エネルギーの供給面での懸念が拡大しており、エネルギー価格は高止まりの状況にある。今後、ロシアの経済制裁への対抗策や西側諸国のエネルギー政策/対策の行方をにらみながら神経質な展開となろう。

③ 新型コロナウイルス感染拡大

新規感染者数にピークアウト感がみられる国・地域が拡大傾向にあり、欧米各国で規制緩和の動きが本格化している。一方、中国では感染者が依然拡大傾向にある。上海でのロックダウンは 1 ヶ月を超えており、景気への影響が懸念されている。株式市場のみならず、資源需要の減少にも警戒感があり、エネルギー市場の調整要因となっている。但し、現状は株式およびエネルギー市場ともその影響は限定的となっている。

④ 企業業績

2021 年第 3、第 4 四半期の決算では、新型コロナウイルス禍からの回復が概ね順調であることが確認された。市場の関心事は、今回も引き続き企業業績の回復ペースと今後の見通し(ガイダンス)である。オンライン関連や金融セクターで予想を下ぶれる決算もあったが、現状影響は限定的となっている。空運が第 2 四半期業績に強気の見方を示したことから、他の旅行関連銘柄にも強気の見方が広がっている。

以上見てきたように、市場の調整をもたらす要因の中で最も影響度が強いのは、金融政策である。欧米ともに金利先高観が強く、景気および市場への影響が懸念される。特に、一旦のプロフィットテーキングの機会を伺っていた市場参加者が多かったことから、恰好の調整要因となっている。ウクライナ情勢およびエネルギー問題についても、今後の停戦協議の行方

やロシア産原油の全面禁輸措置発動の有無など予測困難なことが多く、注視すべき事象のひとつではあるが、市場への影響はやや後退した感がある。

<ベトナム株式市場> (2022年4月1日～4月22日)

■市況

4月のベトナム株式市場は軟調な相場展開となった。米連邦準備銀行のタカ派色が強まったことや、中国のロックダウンによる経済減速懸念を受け海外株式市場が下落する中、ベトナム株式市場も軟調な相場展開となった。ベトナム国内でも、Louis Holdings 会長と Tri Viet 証券の CEO 逮捕を皮切りとした規制強化懸念が投資家のセンチメントを冷やした。ベトナム公安省は計4名を相場操縦容疑で逮捕し、ミン首相は市場での違反を厳しく取り締まるよう調査を命じており、現在調査が進んでいる。4月22日現在、ベトナム株式市場のVN指数は前月末比、7.57%安の1,379.23ポイントで推移している。

■今後の見通し

世界銀行は4日、2022年のベトナムGDP成長率は+5.3%になるとの予測を発表し、ウクライナ情勢や原油高などのインフレ懸念によって従来予想から下方修正となった。経済指標では、3月PMIは51.7で、前月の54.3から2.6ポイント低下しており、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて2021年10月以降で最低を記録した。ただ、株式市場は悪材料を織り込む形で、大幅な下落となっており、VN指数の本年度PER予想が12倍と比較的割安なことから、外国人投資家などから買いが入っており、好調な企業業績を背景に今後は戻す展開を予想する。

以上

筆者 調査部

各国の株価

4/22

銘柄名		株価	前月末比	3か月前比	12か月前比
日経平均株価	NKY	27,105	-3.7%	-1.5%	-6.6%
TOPIX	TPX	1,905	-3.9%	-1.1%	-0.5%
NYダウ	INDU	33,811	-3.0%	-1.3%	-0.7%
SP500	SPX	4,272	-6.0%	-2.9%	2.2%
ナスダック総合指数	CCMP	12,839	-9.4%	-6.8%	-8.4%
STOXX欧州600指数	SXXP	453	-0.1%	-4.5%	3.3%
ハンセン指数	HSI	20,639	-3.6%	-17.3%	-29.0%
上海総合指数	SHCOMP	3,087	-3.9%	-12.4%	-11.1%
MSCIアセアン	MXSO	690	-2.9%	-2.7%	-4.4%
フィリピン総合指数	PCOMP	6,999	-1.8%	-4.0%	9.7%
ベトナムVN指数	VNINDEX	1,379	-8.0%	-6.4%	10.5%
ジャカルタ総合指数	JCI	7,226	3.2%	7.4%	20.1%
タイSET指数	SET	1,691	0.8%	2.3%	8.8%
インド・センセックス指数	SENSEX	57,197	-0.3%	-3.1%	19.5%

各国の10年債金利

4/22

銘柄名	コード	レート	前月末	3か月前末	12か月前末
日本10年指標債	GJGB	0.25%	0.24%	0.14%	0.07%
米国債10年	USGG	2.90%	2.47%	1.76%	1.56%
ドイツ国債10年	GDBR	0.97%	0.59%	-0.07%	-0.26%
フランス国債10年	GFRN	1.42%	1.02%	0.33%	0.08%
スペイン国債10年	GSPG	1.94%	1.44%	0.64%	0.40%

各国の為替レート

4/22

通貨	コード	為替レート	前月末比	3か月前比	12か月前比
米ドル	JPY	128.5	5.3%	13.0%	19.1%
ユーロ	EUR	138.8	3.5%	7.6%	6.4%
ユーロ/米ドル	EURUSD	1.1	-1.8%	-4.9%	-10.8%
ドル指数	DXY	101.2	2.5%	5.8%	11.4%
タイバーツ	THB	3.8	4.2%	9.8%	10.2%
人民元	CNY	19.8	3.5%	10.4%	19.1%
フィリピンペソ	PHP	2.4	4.8%	10.5%	9.8%
ベトナムドン(100)	VND	0.6	5.1%	11.1%	19.5%
インドネシア・ルピア(100)	IDR	0.9	5.1%	12.9%	20.5%
インド・ルピー	INR	1.7	4.9%	9.8%	16.7%

コモディティ価格

4/22

銘柄名	コード	価格	前月末比	3か月前比	12か月前比
WTI 原油	CL1	102.1	-10.4%	19.9%	64.3%
NY天然ガス	NG1	6.5	17.3%	63.4%	139.3%
金スポット	XAU	1931.6	-1.4%	5.2%	8.7%
プラチナスポット	XPT	931.4	-7.4%	-9.9%	-24.4%
LME銅	LMCADY	10113.3	-1.3%	1.3%	5.5%
LMEニッケル	LMNIDY	33069.0	-6.8%	36.0%	102.2%
CBT小麦	WA	1075.3	-1.6%	38.9%	58.5%
CBT大豆	SA	1688.0	0.0%	18.3%	29.8%
CBTコーン	CA	789.0	7.4%	29.7%	41.0%
NYB砂糖	SBA	19.2	-1.3%	4.6%	24.5%
NYBコーヒー	KCA	227.2	2.4%	-4.2%	55.8%